

第 31 期 事 業 報 告

〔 自 2019年4月 1日 〕
〔 至 2020年3月31日 〕

株式会社 NHKエンタープライズ

目 次

1. 会社の現況に関する事項	2
(1) 事業の経過および成果	2
(2) 事業の分野別の概況	5
(参考) 2019年度 コンクール等受賞一覧	23
(3) 対処すべき課題	27
(4) 設備投資等の状況	28
(5) 資金調達の状況	28
(6) 事業譲渡・吸収分割または新設分割の状況	28
(7) 事業譲受の状況	29
(8) 吸収合併・分割による他の法人等の事業に関する 権利義務の承継の状況	29
(9) 他の会社の株式その他の持分または新株予約権等 の取得の状況	29
(10) 財産および損益の状況の推移	29
(11) 主要な事業内容	29
(12) 主要な事業所等	30
(13) 従業員の状況	30
(14) 重要な親会社および子会社の状況	30
(15) 主要な借入先と借入額	31
(16) その他会社の現況に関する重要な事項	31
2. 会社の株式に関する事項	31
3. 会社役員に関する事項	32
4. 会計監査人の状況	34
5. 業務の適正を確保するための体制	35

1. 会社の現況に関する事項

(1) 事業の経過および成果

2018年度～2020年度 中期経営計画の2年目にあたる2019年度は、「SHIBUYAから“世界”へ」をキャッチコピーに、3つのビジョンと8つの具体的な重点目標において、番組制作、イベント・展示、映像・ソフト販売、キャラクター等、多くの分野で積極的な取り組みと業務の効率化を重ねた結果、当期の売上高は史上最高の607億2百万円（前期比2.6%増）を達成し、営業利益は29億8百万円（前期比39.7%増）、経常利益は32億8千万円（前期比40.0%増）でしたが、当期純利益はワープステーション江戸の減損処理のため12億7千7百万円（前期比20.4%減）にとどまり、増収減益となりました。なお、NHKに対する副次収入は17億2千2百万円、目標の14億8千2百万円を2億4千万円上回る目標比116.2%とすることができました。

NHK関連の業務では、スーパーハイビジョン（SHV）放送やデジタル関連サービスへの貢献、「東京2020」やU59層へのリーチ拡大に取り組みました。

BS4K生中継で世界初となった「謎の天空遺跡マチュピチュ大中継」、BS4K開局1年記念番組「アフリカサファリツアー大中継 体感！野生動物の楽園」では世界遺産・ンゴロンゴロ保全地域から4K生中継を実施しました。また、公共メディアへの取り組みとして「体感 首都直下地震ウィーク」のデジタルコンテンツを開発、NHKオンラインとLINEコンテンツ向けにドラマの進行とシンクロして10万人を超える参加者へ防災コンテンツを届けました。マラソングランドチャンピオンシップ（MGC）では、4つのチャンネルから見たい映像を選び観戦できるライブストリーミングと実況ツイート、SNS分析で独自サイトを作成しました。

NHKが3月から開始した放送同時配信「NHKプラス」ではデジタル発信の中核となる運用監視業務を担っています。さらには日本対アイルランド戦のラグビーワールドカップサッカー8Kパブリックビューイングと応援イベントを実施し注目を集めました。

定時番組では総合ゴールデンタイムの「チョコちゃんに叱られる!」、「突撃!カネオくん」、「所さん大変ですよ!」がいずれも好調。総合視聴率は10%を越え、U59は3～6%と現役層でも高いリーチを獲得することができました。また、Eテレの新アニメ「魔入りました!入間くん」がスタートし小学生男女は5%近い視聴

率、「おしりたんてい」も4～12歳男女の総合視聴率が20.4%を記録しました。特集番組では7月の2回シリーズNHKスペシャル「恐竜超世界」が幅広い年齢層に、特集ドラマ「マンゴの樹の下で～ルソン島、戦火の約束～」、連動企画BS1スペシャル「マンゴの樹の下で～こうして私は地獄を生きた～」は戦争体験のない世代から反響を集めました。放送文化の向上に寄与する大型ドキュメンタリーやドラマ番組も多くを世に送り出しました。BS1スペシャル「在宅死“死に際の医療”200日の記録」は映画版が公開され多くの反響をいただきました。また、土曜ドラマ「サギデカ」、BS1スペシャル「ボルトとダシャ～マンホールチルドレン20年の軌跡～」が第74回文化庁芸術祭それぞれの部門で大賞を受賞、芸術祭は3年連続受賞という快挙を成し遂げました。また、いのち誕生の現場を舞台に現代社会の問題を見つめたドラマ10「透明なゆりかご」は、第35回ATP賞グランプリ、第45回放送文化基金賞・奨励賞を受賞し、当社のドラマ制作力が高く評価されました。

イベントや展示関連でも注目を集める事業が続きました。大河ドラマ「麒麟がくる」の展示は過去最多の5か所で行いました。第10弾となる「ミュージカル忍たま乱太郎」では、学園祭コンサートも実施し多くの女性ファンが来場しました。8月には「渋谷フレンドシップフェスティバル」を開催し、ブース出展者、イベント運営者、アーティスト、パフォーマーなど総勢500名以上が参加、7,816名の来場者の方に体験コンテンツや音楽会、ナイトパレードをお楽しみいただきました。第18回「東京JAZZ」は、渋谷で3年目の開催となりましたが、NHKホールでの公演以外にケヤキ並木のステージやふれあいホールなど86,822人を動員しました。また、新たな2.5次元ミュージカルとして「天才てれびくん the STAGE ～てれび戦士 REBORN～」の舞台化を実現、20～30歳の男女を大きく取り込むことができました。

その他、高知県立牧野植物園の4KVRシアターの上映システムとコンテンツ4作品を制作、220インチの大画面で精緻な素材を基に牧野富太郎の世界を体感できるシアターとして好評を博しています。さらには沖縄県豊見城市の「DMMかりゆし水族館」にジンベエザメやダイオウイカなど6K×2K解像度のCG映像を納め開館が待たれます。

映像ソフト販売では4月発売のDVD「アシガールSP」は12,000本、6

月発売の「シブヤノオト ミュージカル刀剣乱舞」は初回22,000本と好調に推移しました。また、キャラクタービジネスでは幼児基幹3番組「いないいないばあっ!・ガラピコぷ〜(おかあさんといっしょ)・みいつけた!」と大手服飾メーカーとのトレーナーやパジャマの展開、「チコちゃんに叱られる!」や「ベニシアさんの手づくり暮らし展」の催事などが物販の売上に貢献しました。

コンテンツ販売ではアニメ「ラディアン第2シリーズ」、「魔入りました!入間くん」はNHKの放送直後配信をメインとした世界規模での販売が成約となりました。また、国内VOD事業者の10プラットフォームに提供し好成績を得ることができました。

世界の変革に向けて国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)についても、17の目標のほぼすべてに関する番組を制作するなど積極的に取り組みました。11月にはSDGメディア・コンパクトに加盟し、国連とパートナーシップを築き、SDGs達成に向けた取り組みを強化しています。

また、業務の効率化に向けたRPA化を進めたほか、基幹システムの刷新を含めた“全社的な業務改革”への取り組みに着手しました。12月には業務改革のプロジェクトを立ち上げ、コンサルタントを選定のうえ、1月から課題の洗い出しや、システム刷新の方向性について検討を重ねています。

こうした各分野での実績・取り組みをふまえつつ、中期経営計画の3年目となる2020年度は、NHKプラネットと合併し、各地域支社との連携による全国展開を視野に、全社的な業務改革を進めながら、番組制作はもちろんのこと、映像・ソフトの販売、イベント、展示博覧会、デジタルコンテンツの制作、キャラクター展開、権利ビジネス、そしてSDGs達成への貢献など、いずれの業務にも創意工夫を重ね、着実に進めてまいります。

(2) 事業の分野別の概況

①<放送番組制作>

ドラマやドキュメンタリー、エンターテインメント、アニメーション、語版制作など、合わせて13,788本の番組を制作し、売上高は407億2千6百万円でした。

番組コンクール関係では、第74回文化庁芸術祭、テレビ・ドラマ部門で土曜ドラマ「サギデカ」、テレビ・ドキュメンタリー部門でBS1スペシャル「ボルトとダシャ ～マンホールチルドレン20年の軌跡～」が大賞を受賞し、昨年のドラマ10「透明なゆりかご」、一昨年の特集ドラマ「眩（くらら）～北斎の娘～」に続き3年連続の大賞受賞となりました。この他にも数多くのコンクールで受賞し、制作力の高さを示しました。

制作企画

制作本部全体のヘッドクォーターとして、事業提案を取りまとめ、番組制作に関する委託取引等を統括するとともに、新人若手社員の人材育成を進めました。また、番組制作に欠かせない、映像・音声等の編集リソースの効率的なマネジメントにも取り組みました。

デジタル開発

Webサイト、データ放送、動画配信、4K・8K映像制作、VR・360度コンテンツ制作など幅広い業務に対応できる高い制作力を活かし、NHKのデジタル発信を積極的に支えました。

「NHKオンライントップページ」「NHK WORLD-JAPAN」「NHKドラマオンライン」「NHKアニメワールド」などの基幹サイトをはじめとしたNHKホームページの制作を実施しました。また放送連携事業では、「天才てれびくんYOU」「沼にハマってきいてみた」「おやすみ日本 眠いいね」「おしりたんてい」、連続テレビ小説「スカーレット」大河ドラマ「麒麟がくる」などのデータ放送等の開発・運用を実施しました。NHKスペシャル「体感 首都直下地震」ではSNSとドラマが同時進行しながら大災害を体感するという新しい手法を開拓し内外の高い評価を得ることができました。

1年延期が決まったTOKYO2020の事業もデジタル開発の大きな柱です。「東京2020オリンピックサイト」「東京五輪競技サイト」において最先端の技術

を駆使した大規模なシステム構築を実施しました。これらは今後も改修や運用を行い、2021年の本番へむけて整備を継続します。

2020年3月から開始した放送同時配信サービス「NHKプラス」。デジタル開発はNHKのデジタル発信の中核となる新サービスの運用監視業務を担っていきます。

これらのNHK事業で培ったノウハウを活かして独自事業にも取り組んでいます。「NTT R&Dフォーラム」では高精細画像を駆使してNTTグループのビジョンをプレゼンテーションする制作事業を受託。新しいイベント演出の姿を示すことができました。

番組開発

多様なジャンルの幅広い視聴者層に向けた番組を企画・制作する一方、新しい技術を使った取り組みにも積極的にチャレンジしました。

総合テレビでは、毎月全国各地から生放送する「今夜も生でさだまさし」、世の中のお金にまつわるヒミツを掘り下げるバラエティ番組「有吉のお金発見 突撃！カネオくん」のほか、土曜深夜の生放送「おやすみ日本」、2000枚以上の写真から最新技術によって1964年のオリンピック当時の東京の街並みを再現した「ミラクルトラベル 熱狂の1964東京へ」、話題のVTuberを取り上げた「バーチャルさんといっしょ。ーVTuberの国からコンニチハ！ー」などを制作しました。Eテレでは、高校生と尾崎世界観が本音で語り合う特集番組「トライアングル」、全国で開催されたデパート展「ベニシアさんの手づくり暮らし展」で、10万人あまりを動員した国内共同制作番組「猫のしっぽカエルの手」などに取り組みました。

BS1では「地球タクシー」や「グレートレース」などのおなじみの番組のほか、BS1スペシャルでは異色の経済番組「欲望の資本主義」シリーズ、市川崑監督の残した公式記録映画とともに、1964年の東京オリンピックを振り返る「知られざるオリンピック」などを制作しました。BSプレミアムでは、動物好きに大人気の特集「もふもふモフモフ」、また国際放送向けには、奥深い日本の釣りの世界を紹介した「Fishing Crazy」などを制作しました。

このほか、日本全国を熱狂させたラグビーワールドカップの開会式映像制作や、全国の被災地の観光復興支援を行うためのホームページやツイッター運営など、イン

ターネットを使った独自事業にも着手しています。

情報文化番組

ドキュメンタリーからバラエティ、ドラマまで幅広いジャンルで年間2,000本以上の番組を制作しました。総合テレビでは「チョコちゃんに叱られる!」「所さん!大変ですよ」「ファミリーヒストリー」「プロフェッショナル仕事の流儀」「さし旅」のほか、「ごごナマ」「ニュース シブ5時」といった生放送番組を制作。Eテレでは「世界の哲学者に人生相談」のほか、特集で「オリガミの魔女と博士の四角い時間」「植物に学ぶ生存戦略 話す人・山田孝之」などを制作しました。

BS1では、「球辞苑」「COOL JAPAN」「超人たちのパラリンピック」「BS1ドキュメンタリー」、BSプレミアムでは、「世界ふれあい街歩き」「にっぽん縦断 ころろ旅」「英雄たちの選択」「岩合光昭の世界ネコ歩き」「イッピン」「晴れ、ときどきファーム!」「まんぷく農家メシ」「新日本風土記」「ダークサイドミステリー」といった定時番組のほか、特番では「グレートトラバース3 日本三百名山全山人力踏破」「怪魚ハンター」「映像の世紀プレミアム」など、多彩なジャンルの番組を制作しました。

国際番組では、「Trails to Oishii Tokyo」や「DESIGN TALKS PLUS」、4K8K番組では、「ニッポン印象派」「あてなよる」「謎の天空遺跡 マチュピチュ大中継」などを制作しました。

自然科学番組

定時番組では、総合テレビ「ダーウィンが来た!」「さわやか自然百景」、BSプレミアム「ワイルドライフ」「ニッポンの里山 ふるさとの絶景に出会う旅」の4番組を制作しました。

特集番組では、NHKスペシャル「恐竜超世界第1・2集」「ホットスポット 最後の楽園 season3 第1・2・3回」を制作し、大きな反響を呼びました。この他にも、BS1スペシャル『イヌと人の熱き戦い!〜アジリティー世界大会 2019』、ETV『ハートネット TV 心が躍る生物教室』など様々な自然分野の特集番組を制作しました。

2018年から本放送が始まった4K・8K番組制作にも積極的に取り組んでい

ます。4つの定時番組と主な特集番組で4K一体化制作を進め、合計102本を制作しました。また、BS4K開局1年を記念し、『アフリカサファリツアー大中継 体感！野生動物の楽園』を制作、「ダーウィンが来た！」を始め、BS4K・BSP・総合3波で合計7.5時間をアフリカから生中継しました。8Kについては『タイムスケイプ』（10分×5本、59分×1本）、『オカバンゴ 水の魔法が生み出すアフリカの奇跡』を制作しました。また、自主事業としては、「牧野植物園4KVRシアター」や「劇場版ダーウィンが来た！恐竜超伝説」の映画制作などを行いました。

ドラマ番組

総合テレビにおいては、土曜ドラマでは「サギデカ」「少年寅次郎」の2シリーズを制作するとともに73分2本のスペシャル版「みをつくし料理帖スペシャル」を制作しました。「サギデカ」は「振り込め詐欺」の現実に切り込み、現代社会の病巣を深く抉る重厚な人間描写が高く評価され、文化庁芸術祭大賞を受賞しました。ドラマ10は「ミストレス～女たちの秘密～」「ミス・ジコチャー～天才・天ノ教授の調査ファイル～」の2シリーズを制作しました。土曜時代ドラマはBS時代劇の再編集枠になりましたが、「雲霧仁左衛門」シリーズなど高品質なラインナップは新作と変わらず支持されました。夏季特集のドラマとして「夢食堂の料理人～1964東京オリンピック選手村物語～」終戦ドラマ「マンゴの樹の下で～ルソン島・戦火の約束～」「ピュア！～一日アイドル署長の事件簿～」の3作、正月時代劇では「そろばん侍 風の市兵衛SP～天空の鷹～」を制作し、いずれも見ごたえのある特集ドラマとして好評を博しました。毎年、脚本公募のグランプリをドラマ化する創作テレビドラマ大賞。受賞作「ゴールド！」は高齢者の運転という現代的なテーマを描き、高く評価されました。

BSプレミアムにおいて、レギュラーのBS土曜時代ドラマは「大富豪同心」「螢草 菜々の剣」「赤ひげ2」「大岡越前5」の4シリーズを制作しました。安定した人気を誇るシリーズ物に加え、若い女性主人公の敵討ちを描く「螢草 菜々の剣」は新たな視聴層を獲得し、「時代劇のNEP」の存在感を改めて示すとともに、人気シリーズの最後を飾る「立花登青春手控えスペシャル」を正月に放送し、時代劇ファンのニーズにも、こたえることができました。プレミアムドラマでは「歪んだ波紋」「贗作～男はつらいよ～」2シリーズを制作しました。単発ドラマとしては「恋と

就活のダンパ」「ファーストラヴ」「黒蜥蜴～BLACK LIZARD～」「Wの悲劇」「居酒屋兆治」を制作しました。就活をコミカルに描くオリジナル作品や直木賞受賞の話題作のドラマ化、名作のリメイクとバラエティに富んだ話題作でBSプレミアムの視聴層拡大に貢献し、中でも「ファーストラヴ」は女性層から強く支持されました。独自事業として制作した映画「エキストロ」は3月に劇場公開されました。

エンターテインメント番組

定時番組では、総合テレビで「みんなのうた」「〇〇〇〇の演芸図鑑」「SONGS」を制作し、Eテレでは「日本の話芸」「ムジカ・ピッコリーノ」「Eダンスアカデミー」「わらたまドッカ～ン」「沼にハマってきいてみた」「古典芸能への招待」「芸人先生」を制作しました。BSプレミアムでは「新・BS日本のうた」「ザ少年倶楽部」「クラシック倶楽部」「プレミアムシアター」を制作しました。音声波では、クラシックからジャズ、ポピュラー、バラエティに至る多様なジャンルで、ラジオファンのニーズに応える番組を継続して制作したほか、「ディスカバー・マイケル」などの番組を新規受託しました。

特集番組では「アニソン！プレミアム！」「SONGS OF TOKYO」「おげんさんといっしょ」「The Covers Fes」などの音楽番組、「笑アニさまがやってくる」「急上昇↑ZOOチューバー」「鉄オタ選手権」などのバラエティ番組のほか、「演歌フェス2019」など多彩な大型特集番組を多数制作し好評を得ました。

4K・8Kコンテンツの取り組みも積極的に行い「4K洋楽倶楽部」「東京JAZZ」「ABUソングフェスティバル」「にっぽんの芸能」など4K8Kによるエンターテインメントコンテンツ制作の実績を着実に積み重ねています。

また自主事業では、2020年に向けて日本の文化を発信していく企画として、「J-CULTURE FEST」「第二回 古典芸能を未来へ 囃子」のほか、「こころの歌人たち」「令和歌の祭典」「細野晴臣イエローマジックショー3」「久石譲 WORLD DREAM ORCHESTRA 2019」などの舞台演出を受託しました。

公共放送と10代の若者をつなげる企画として「Alexandros 18祭」のイベント演出や、「2020ソング カイト」の演出を担当するなど当社の未来を開拓する事業を成功させました。

国際番組

国内外の制作プロダクションや、NHK Cosmopedia America（NCMA）、NHK Cosmopedia Europe（NCME）など海外現地法人、海外の放送局などと協力し、国際的な番組を制作するとともに、海外でのリサーチ、クルー派遣などの番組支援業務も、海外現地法人を通じて行いました。

NHK World では、定時番組「Direct Talk」「Global Agenda」「Inside Lens」「Anime Supernova」を制作、世界に発信しました。

BS1 では、準定時番組として、オリンピックに向け注目が高まる「スポーツ・クライミング」「サーフィン」、継続的に制作してきた「エアレース」、冬の新しい競技「アイスクロス」など、多彩なスポーツ番組を放送しました。

また、特集番組では、「突撃ストリートシェフ」（BS1）、「内藤大助の大冒険」（BSプレミアム）など、世界を舞台にした紀行エンターテインメント番組や、「中国ネットアイドル」（BS1）、「市民が見た 香港“時代革命”」（BS1）など時事性の高いドキュメンタリー、「ダイヤモンド博士の“ヒトの知恵”」（Eテレ）、「ダビンチ 幻の肖像画」（BS1）などの教養系番組を制作しました。さらに4K・8Kには特に力を入れ、「空からクルージング」（8K）、「聖なる巡礼路」（8K）、国際共同制作による「中国秘境謎の民」「空旅中国」（4K）、NCMEと共に取り組んだ「ヨーロッパ トラム紀行」「世界の祭り」（8K）など、数多くの番組を制作しました。

国際共同制作を支援するフォーラム「Tokyo DOCS」や、サンダンス・NHK国際映像作家賞の事務局を担いつつ、参加作品の「37 Seconds」の制作支援や関連番組の制作など、幅広い活動も行いました。

アニメーション番組

総合テレビでは、「映像研には手を出すな」を制作しました。湯浅政明監督ほか実力派スタッフによる斬新な描写が、インターネット・SNSを中心に熱烈な反響を呼びました。

Eテレでは、後期に2本の新作シリーズを制作しました。土曜夕方の「魔入りました！入間くん」はコメディながら少年の等身大の成長を描き、小学生から若い女性まで幅広く熱心なファンを獲得。水曜夜の「ラディアン 第2シリーズ」は正統派・少年冒険ファンタジーの続編として、引き続き特に海外から注目と支持を集めまし

た。

Eテレ平日夕方方は、長寿アニメの「忍たま乱太郎」「おじゃる丸」に加え「わしも」を制作しました。今期もEテレの中では高い視聴率を得ています。

ベストセラー児童書をアニメ化した「おしりたんてい」は、新作と再放送を交えて土曜・木曜の2枠で放送。4～12歳の総合視聴率で全局トップの週があるなど、圧倒的な人気が続いています。

語版展開

海外ドラマでは、韓国ドラマ「100日の郎君様」、「ヘチ 王座への道」のほか「刑事ルーサー」（以上BSプレミアム）、「大草原の小さな家」（BS4K）、「レ・ミゼラブル」（総合）「ミルドレッドの魔女学校」、アニメ「おさるのジョージ」（以上Eテレ）などの日本語吹き替え版を制作しました。

海外ドキュメンタリーでは、「BS世界のドキュメンタリー」（BS1）、「地球ドラマチック」「奇跡の星」（以上Eテレ）の日本語版を、また、映画関連では、BSプレミアムシネマの映画字幕に加え「東京国際映画祭」特番も制作しました。

また、「世界ふれあい街歩き」、「COOL JAPAN」などの英語版を作成し、NHK番組の海外発信に貢献しました。

また、NHKの多岐にわたる番組の解説放送を1800本余り制作しています。

②<映像ソフト販売>

国内のパッケージ市場は厳しい状況が続いていますが、2019年度はヒット作品にも支えられ、一定の成果を挙げることができました。

「シブヤノオト ミュージカル刀剣乱舞」「チョコちゃんに叱られる！」は発売以来、通年で好調を維持しヒット商品となりました。

(株)NHKエデュケーショナルの協力により「おかあさんといっしょ」では「最新ソングブック ぴかぴかすまいる」60周年記念コンサート「ふしぎな汽車でいこう」「いないいないばあっ！ピカピカブ〜！」が好調でした。

連続テレビ小説では「なつぞら」「スカーレット」を発売しました。また、「京都人の密かな愉しみ BLUE 修業中」「家康 江戸を建てる」「ひよっこ2」「トクサツガガガ」「永遠のニシパ」「これは経費で落ちません！」などの新作、韓国ドラマは「不滅の恋人」「10

0日の郎君様」を発売しました。アニメでは「ログ・ホライズン第1・第2シリーズ」の新価格版をリリースし、販売数をのばしました。

アーカイブス・ドラマは、「系列」「松本清張シリーズ」「青春戯画集」などを初めて商品化しました。

ドキュメンタリー関連では、NHKスペシャル「人体Ⅱ 遺伝子」「全貌 二・二六事件」「恐竜超世界」のほか、「北アルプス ドローン大縦走 白銀の峰々へ」「劇場版ダーウィンが来た！アフリカ新伝説」「幻の巨大空母 信濃」などをリリースしています。

NHKのアーカイブ映像からアーティスト系では「テレサ・テン 永遠のステージ」「吉幾三 NHK歌唱の軌跡」、「図鑑MOVE」は「科学のふしぎ」ほか全5商品を新たにラインナップに加え展開。また「少年ドラマシリーズ」「人形劇クロニクル」「過去の大型ドキュメンタリー」「おしん」を新価格版として再発売し、好評を得ました。

教材では、次年度からの小学校学習指導要領の改訂に際して、11事業を受注し、納品しました。

新規発行ディスク数は、トータルで701ディスク（昨年922ディスク）となりました。

③<イベント事業・ソフト制作>

イベント

「NHK学生ロボコン」は5月26日、日本工学院専門学校片柳アリーナで開催されました。競技名は「グレート・ウルトゥー」。かつてモンゴルの遊牧民たちは「ウルトゥー」と呼ばれる中継地で、馬を乗り換え迅速な情報伝達を行いました。

今回の競技は2チームによる対戦形式で、馬に見立てたロボットが駆伝しながら課題をクリアして、「ゲルゲ」と呼ばれる通行証をゴールまで運び届ける早さを競います。

予選を勝ち抜いた22チームの中から、15年ぶりに出場した京都大学が優勝しました。続いて8月25日、モンゴル・ウランバートルで開催された「ABUロボコン」は、18の国と地域から参加した19チームで熱戦が繰り広げられ、日本代表の京都大学が「デザイン賞」を受賞、香港中文大学が優勝しました。

32回目の「高専ロボコン」の競技名は「らん・ラン・ランドリー」。洗濯物干しをテーマに、全国8会場で地区大会を実施、各地区の優勝・推薦校による全国大会を11月24日、東京の両国国技館で開催しました。ロボコン大賞は奈良工業高等

専門学校、優勝は香川高等専門学校詫間キャンパスとなりました。その模様は同日19時からBS4Kで、12月29日には総合テレビで放送されました。

「第18回 東京JAZZ」は、8月30日から9月1日までNHKホールをメイン会場に、MISIA、チック・コリアといった豪華アーティストによる夢の舞台を実現しました。代々木公園ケヤキ並木では、世界各国から来日したアーティストが自由なスタイルで演奏しました。またライブハウスWWWでも、ミュージシャンのキュレーションによる「今聴きたい」JAZZをお楽しみいただきました。渋谷センター街での学生を中心としたJAZZパレードも、渋谷の街に広がるJAZZフェスの象徴として盛り上がりを見せました。NHKホール公演はBSプレミアム、FMに加えBS4Kでも放送されました。

東京2020公認プログラム「全日本なわとびかっとなび王選手権」は、12月8日東京で決勝大会を実施し、全国8ブロックの予選を勝ち抜いた4校が「8の字跳びタイムアタック」を競いました。優勝は福岡県福岡市立飯倉中央小学校、準優勝は茨城県銚田市立旭北小学校となり、決勝大会の様子は総合テレビとBS4Kで放送されました。

人気の2.5次元ミュージカル「ミュージカル 忍たま乱太郎」第10弾は、東京・大阪での初演・再演に加え、「学園祭コンサート」も実施し好評を博しました。

また、新たな舞台「天才てれびくん the STAGE」を開発、1月23日から2月2日にかけて東京・大阪で全11公演を実施、こちらも大好評を博し、3月28日に教育テレビで放送されました。

9月8日に開催された「第39回全国豊かな海づくり大会」式典では、企画運営業務を受託、9月15日から開催された「天皇陛下御即位記念 第34回国民文化祭・にいがた2019、第19回全国障害者芸術・文化祭」でも、前年度の大分県に続いて開・閉会式の企画運営業務を受託しました。どちらも天皇・皇后両陛下ご臨席のもと、多くの県民に「豊かな水産資源を次代につなぐ大切さ」を伝え、「地域の伝統や文化に触れる機会」を提供しました。

今や、全国の子供たちに大人気の「パプリカ」。5月の広島フラワーフェスティバル公演をはじめ、NHK関連イベントやオリンピック・パラリンピック関連イベントへのFoorinアテンド業務を受託。ステージの一部は、NHKみんなのうたでも放送され、大きな話題となりました。

2020年の8K公開施設を念頭においた業務として、MCによる盛り上げ+光や音でリアルタイムに演出を行う、8Kパブリックビューイング演出業務を受託。全日本柔道選手権やラグビーワールドカップの熱戦を舞台に、貴重なノウハウを蓄積しました。

8月に国立劇場で行われた「第二回 古典芸能を未来へ」では、8Kによるライブビューイングを都内2カ所で実施、NEP技術力の高さを示しました。

展示事業

昨年度から引き続いて「いだてん 大河ドラマ館」（熊本県玉名市）の展示・リニューアルを行ったほか、「麒麟がくる 大河ドラマ館」では、1月11日、岐阜県と京都府で過去最多の5か所同時オープンを実現しました。

「ワープステーション江戸」では、大河ドラマ「いだてん」の撮影で使用されたほか、2月には初の海外メジャー作品「G. I. ジョー 漆黒のスネークアイズ」の撮影に約1か月使用されました。

映像ソフト制作

資生堂より、最先端の研究施設 S/PARK オープンに際し、エントランスにある16K（8K×2）モニター用展示映像の制作を受託。“イノベーションが次々とうまれる「スパークする研究所」”というコンセプトに沿ったイメージ映像となりました。

高知県立牧野植物館からは展示館シアター用4K展示映像を受託、3月までに全4作を納品しました。220インチの大画面で、牧野先生が描いた図の精密さに迫るほか、ムジナモがミジンコを捕えるシーンなど、ミクロな視点でその世界が体感できる映像となりました。

この他、連続テレビ小説「エール」で盛り上がる福島市より、「古関裕爾記念館展示映像」など、多くの展示館や企業で上映される展示映像を制作しました。

④＜番組提供＞

放送事業者への番組提供

＜チャンネル銀河＞＜AXNミステリー＞＜歌謡ポップスチャンネル＞＜時代劇専門チャンネル＞＜ホームドラマチャンネル＞＜アニマックス＞ など39チャンネル

ネルに対し、大河ドラマや連続テレビ小説、アニメ、また、韓国ドラマや欧米ミステリードラマなど、合計197タイトルを提供しました。ケーブル局には、39局へ大河ドラマ「義経」、連続テレビ小説「あさが来た」など58タイトルを提供しました。

また、情報誌「ケーブル新時代」を年10回発行し、ケーブル各局への情報発信を行ったほか、全国7か所で経営や番組制作などのセミナーを実施し、合計で約580名が受講しました。

「ケーブル新時代」は約30年、通算244号の発行を重ねましたが、今期をもって休刊となりました。

VOD事業者への番組提供

<AMAZONプライム><U-NEXT><Netflix><ドコモ・アニメストア><Hulu><a uビデオパス>など、全27事業者にアニメ番組や幼児番組、韓国ドラマなど海外番組含め232タイトルを提供しました。昨年度立ち上げた「NHKこどもパーク」は引き続き順調に会員数を伸ばし、月額で約1600万円を売り上げるまでに成長しました。

また<U-NEXT><ひかりTV>などに対するVODをファーストウィンドウとした作品購入が増加しています。

アーカイブス事業

SHV本放送が始まる中で、放送番組、映像・音声素材、レコードなどをNHKアーカイブスに登録・保存する業務を的確に進めるとともに、番組データ入力や資料添付、同時配信に向けた権利情報整備など、コンテンツ価値を高めるためのメタデータ整備にも積極的に取り組みました。合わせてNHKアーカイブスの新機能「AI顔認識システム」を学習させる教師データ補完作業も新規で実施しました。4K・8K番組やその素材の保存や提供も始めました。

アーカイブス未保存の過去番組を探し出し保存化する番組発掘業務では、特にスポーツや音楽系番組の関係者を中心に収集を進めました。結果、ラグビー日本選手権の中継や大河ドラマ「元禄太平記」等の映像ほか、芸能番組から教養番組まで、音声番組・外部制作を含め1306番組をアーカイブスに加えることができました。

一方で、「保存」するだけでなく「活用・公開」するための業務にも取り組み、アーカイブスに保存された過去の膨大な番組資産や映像素材を使って、定時番組の「あの日あのときあの番組」、「プレミアムカフェ」を制作しました。さらにBS4Kで放送された「4Kでよみがえる新日本紀行」「4Kでよみがえるシルクロード(パイロット版)」は、フィルムを高画質な映像でよみがえらせ、4K放送の可能性を広げるとともに、NHKアーカイブスの存在感を示しました。

アーカイブスでは、保存番組を上映し、関連ゲストによるトークショーやミニコンサートも合わせ行うイベントや番組公開収録（プレミアムカフェ）を開催（年6回実施）、ときに全国各地からの来場者が集まる場合もあります。

また、全国のNHK放送局にある「番組公開ライブラリー」施設での公開番組、公募により選ばれた大学研究者に保存番組を閲覧利用していただく「学術利用トライアル」プロジェクト運営も継続して進めています。

このようにNHKが掲げる「保存・活用・公開」という方針の元で、正確で的確かつ積極的で多角的な業務運営を行っています。

素材提供事業

東京オリンピック・パラリンピックを控え、スポーツに関する番組・CMなどの申し込みが多数ありました。アスリートの応援をする企業や情報を取り上げる番組が増えていることが考えられます。

NHK関連事業局、知財センター アーカイブス部との連携のもと、4K映像の外部提供開始に備え、必要機材の検討・準備を行いました。外部提供開始は概ね2020年6月頃を予定しています。

（福）NHK厚生文化事業団、（公財）放送番組センター、（福）聴力障害者情報文化センターの3公益団体への番組提供も例年通り行っており、提供実績は昨年を上回る結果であり、番組の利活用に貢献しています。

⑤<キャラクタービジネス>

ライセンス事業では、人気番組「チョコちゃんに叱られる！」のキャラクター展開が好調で400種類を超える商品化を実現、全国8か所の百貨店や専門店でイベントを開催し、チョコちゃんのグリーティングも行いました。また、コミック誌の連載

をはじめ、写真集や絵本、ゲームブックなど関連書籍も多く出版されました。連続テレビ小説「なつぞら」では番組タイトルロゴを使用したいという要望が地元を中心に多数寄せられ、合わせて57社140種の商品に提供しました。さらに幼児番組「いないいないばあっ!」では、大手アパレルメーカーとの取り組みや、日販品メーカーのキャンペーンなどで、商品化展開としては過去最高の売上を記録しました。

商品販売事業では、さいたま、大阪で開催されたこども幼児番組関連イベントの会場においてキャラクター商品の直販を実施し、自社で開発したオリジナル商品を中心に大きな実績を上げました。

⑥<権利ビジネス>

海外の番組については、欧米ドラマ「レ・ミゼラブル」「女王ヴィクトリア シーズン2」4K版「刑事コロンボ」「大草原の小さな家」、韓国歴史ドラマ「100日の郎君様」「ヘチ」、ドキュメンタリー「奇跡の星」「ノートルダム 緊迫の5時間」「お茶の間ロボットの人生相談」、ライフスタイル「レイチェルのおいしい旅レシピ」、エンターテインメント番組「U2 エクスペリエンス ライヴ・イン・ベルリン」をはじめとする数多くの番組を購入し、NHK等で放送され好評を博しました。また、「100日の郎君様」、「女王ヴィクトリア シーズン2」などはビデオグラム権も購入し、DVDを発行しました。

海外への番組販売では、アニメが人気を博し、下期放送のアニメ「ラディアン 第2シリーズ」「魔入りました! 入間くん」は、世界規模で配信されました。ドラマでは、アジアを中心に根強い人気の連続テレビ小説は「スカーレット」「なつぞら」「半分、青い。」など、また、連続ドラマでは、「みをつくし料理帖」「透明なゆりかご」など多彩な作品が販売されました。ドキュメンタリーは自然番組、科学番組を中心に販売されました。また、令和の時代を迎え5月に放送された「新天皇・新皇后 歩まれる道」が、アジア、ラテンアメリカに販売されました。

⑦<NOD事業>

NHK オンデマンド受託事業

NHK オンデマンドの権利処理・権料支払いから原盤・メタデータ制作、配信ま

での一連の業務を円滑に実施すると共に、各種無料配信や即日配信など多様な配信サービスに対応しました。

前期に引き続きNODの視聴は年間を通じて好調で、特にドラマ10「これは経費で落ちません！」は7～9月の初回放送時、これも好調であった連続テレビ小説「なつぞら」を超える視聴数を記録。年末年始の再放送時にも大変よく見られました。

NODは2020年3月からのNHKプラスの試行運用に対応し、これまでの「見逃し番組の見放題パック」「特選見放題パック」2パックのサービスから、1パック（見逃し+特選）にサービス内容を変更しました。これに伴いホームページの各種表記、切り替え時の作業フロー、権利者団体との権料支払いルールなど各種の変更に対応しました。

またNHKデジタルセンターからの依頼により、8月からはTV e r提供番組の原盤作成を開始、また11月からの運用訓練を経て、NHKプラスの原盤制作も開始しました。

⑧<受託映像国際放送等>

海外現地法人

当社はNHKから、欧米での映像国際放送と番組制作支援業務を受託しています。これらはNHKの関連団体であるNHK Cosmopedia America（NCMA）とNHK Cosmopedia Europe（NCME）に再委託して実施しています。

このうちNCMAには、エンジェルス・大谷選手やヤンキース・田中選手の活躍などMLBの中継制作に加え、パット・メセニーや星野源のライブの8K収録などを委託し、現地に拠点を持つ強みを生かしてNHKの番組制作を支えました。また北米地域対象の、NHK番組を中心に民放番組や日本の映画も入れて編成する24時間日本語有料チャンネル「TV JAPAN」を通じて、1日平均5時間、NHKからの「邦人向け国際放送」も委託しました。

ヨーロッパのNCMEにも、欧州・中東地域で、NHK番組の制作とコーディネート業務を委託し、「世界の祭り」3時間×4本シリーズ、「ヨーロッパ・トラムの旅」60分×24本、「オルセー美術館」「パリ・オペラ座」など数多くの8K番組のほか、BSプレミアム「ワイルドライフ」や国際放送のNHK World-Japan向けな

ど多岐にわたるコンテンツの制作を行いました。また欧州、北アフリカ、中東の約60カ国に向けてNHK番組を中心とした24時間の日本語有料放送を運営するJSTVチャンネルを通じて、「邦人向け国際放送」も委託しています。

さらにタイでも、当社が出資しているNippon Production Service（NPS）を通じて、NHK国際放送の取材・制作の支援や、現地へのNHK番組の販売など、幅広い分野で業務を推進しています。

⑨<業務支援>

著作権・権料支払業務

NHK知財センター著作権・契約部との連携のもと、各種事業展開に関わる権利処理についての情報集約、管理、相談への対応および映像コンテンツ権利処理機構（ARMA）、JASRACなどの権利者団体等との調整を行い、円滑な事業展開を支援しました。また、ビデオグラム、NOD/VOD、CS・ケーブル局への提供等番組二次展開に関わる権利者への権料支払業務、NHK制作受託番組の放送料支払いの審査業務、商標出願管理業務など、権利関係業務に幅広く対応しました。放送料支払いの審査に関しては、今年度から、放送料の支払いを希望するすべての当社制作番組を対象を広げ運用しました。また知財センターからの委託により、インターネットに不法投稿された動画に対しての不正利用対応を行いました。

さらに、関連事業局からの委託により、NHK番組の一般事業者への提供（番組丸ごと提供）に関する窓口対応、権利処理、納品業務を行いました。

権利確保サポート業務

NHK知財センター著作権・契約部からの委託により、「プロフェッショナル 仕事の流儀」などの定時番組、大河ドラマ「いだてん」「麒麟がくる」、連続テレビ小説「半分、青い。」「スカーレット」「エール」などのドラマ、「日本人と天皇」「黒い津波」などのNHKスペシャル、NHKワールド向け番組「10 years of Hayao Miyazaki」などを、制作部門と連携して、それぞれの要請に応じ、放送及び配信、海外発信などを含む範囲で権利交渉を行い、権利を確保しました。併せて権利情報のデータ作成も行いました。また同じく著作権・契約部からの委託である「常時同時配信に向けたサポート業務」として10月から権利関係の問合せ窓口を開設、制

作現場からの相談に電話とメールで対応しました。また「NHKプラス」での著作物使用についての包括的交渉を、委託元と協力して、映画会社、新聞社、フォトストックなどの大手権利者と行いました。

さらに、同じく著作権・契約部からの委託で、国際契約作成業務を7月から開始しました。

独自事業としては、放送番組国際交流センター（JAMCO）よりNHKおよび民放番組の海外番組提供のための権利処理業務を、（一財）NHKインターナショナルより連続テレビ小説「まんぷく」「いないいないばあっ！」の海外無償提供のための権利処理業務を受託しました。

商品管理業務

ブルーレイディスク、DVDのプレス製造数はヒット商品もありましたが、全体では、昨年度から12%減の約172万枚でした。その内で連続テレビ小説「まんぷく」「なつぞら」では製造原価の圧縮を図り、利益率の向上に努め貢献しました。

ビデオ事業内で情報共有し、商品在庫、原材料等の在庫を見直すと共に、適切な発注管理、廃棄・整理を法令遵守のもと行い、商品倉庫のスリム化を実現し、年間倉庫保管料の削減に結びました。

⑩＜新規事業等への取り組み＞

イノベーション戦略室

事業本部直轄で新規に創設されたイノベーション戦略室は、旧組織の展開・戦略に属していた展開プロデューサーと、同じくデジタル・映像イノベーションに属していたデジタル展開プロデューサーで組織され、制作本部と事業本部のハブ機能を持つ役割を活かして新たな事業展開の案件を増やすことと、これまでにない新規事業を創出することを部の目標として活動いたしました。

結果的に当期においては5人の展開プロデューサーによって計89件の案件を創出し、そのうち35件が事業化に繋がりました。代表的なものとしては「劇場版 ダーウィンが来た！恐竜超伝説」の劇場公開(2月)、舞台「天才てれびくん The STAGE ～てれび戦士 REBORN～」の舞台公演(1月)、NHKスペシャル「体感・首都直下地震」のデジタルサービス展開(12月)などが挙げられます。

また新規事業の創出では、既存のSDやHDの映像を4K並みの高画質に変換する当社独自の技術を事業化する道筋をつけました。

⑪<リスクマネジメント、コンプライアンス、情報セキュリティへの取り組み>

リスクマネジメント強化及びコンプライアンス推進のため「リスクマネジメント委員会」を計3回開催し、2019年度の活動方針や「内部統制の整備状況と運用状況の評価」についての承認等を行いました。また、各部門で作成している「業務プロセス図」から抽出したリスクについて、全部門とのレビュー面談を行い必要に応じて修正等を行いました。

「コンプライアンス推進強化月間」には、本部、センターごとに「業務委託の適正化に関する勉強会」を実施し、多くの社員が参加し、情報や知識を共有しました。また各部門において様々なテーマでの研修会等を開催しました。

情報セキュリティへの取り組みとしては、4月に情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）の第3回目となる3年に一度の更新審査を受け、認証の更新が認められました。また、可搬型記録媒体に関して、ISMS利用者ガイドを一部改訂するとともに、管理状況について全部門を対象に調査を行いました。

内部監査部門は、6部門の監査を行いました。監査結果はその都度社長に報告したうえで監査役に手交するとともに、常勤役員会にも報告し、取締役会で上期総括報告と年間総括報告を行いました。また、NCMEとNCMAについては、コーポレートガバナンスの基本的な整備状況の点検のための調査を実施し、社長に報告したうえで、常勤役員会での報告を行いました。

⑫<法務、顧客対応、システムへの取り組み>

法務・審査部門では、年々増加する契約関連稟議（第31期ではおよそ5,500件）に対応し、一層精度の高い審査に努めました。個別には、業務委託適正化連絡会の立ち上げによる適正性確保のための「手引き」「FAQ」等関連文書の策定から説明会による全社的な周知・徹底、下請法の遵守徹底や契約書の早期締結に関する啓蒙・指導、NHK内部監査やNHKプラスに対する適切な対応、改正民法の施行に伴う契約書ひな型の的確な修正・更新、新型コロナウイルス感染症に対する社の基本方針・運用ルールの策定・周知や契約ごとの特約条項の検討に迅速に対応しました。

また、(株)NHKプラネットとの合併を控えて、同社への研修、契約個別相談を実施すると共に、合併後の契約審査体制を整備し、合併に効率的に備えました。

お客様相談室への、顧客など外部からの問い合わせへの対応件数は、年間合計で3,354件（前年比97%）でした。全社に関わる問合せに対して、親切・丁寧をモットーに正確かつ迅速な対応により当社の顧客満足度の向上に努めました。

システム部門では、2022年4月運用開始を目指して、統合経理システムや国際事業システム等々、基幹システムの刷新に着手しました。コンサルタントを選定し1月から新たに導入するシステムの検討を進めています。NHKプラネットとの統合においては、業務用パソコンやサポート体制の整備、統合経理システムの地域支社への拡充など準備作業に努めました。また、現場業務の効率化を目指してRPAの導入に着手。開発ベンダーを選定する一方で、全社員への勉強会を実施し、現場の提案に沿ったロボットの開発および導入を進めています。セキュリティの強化に向けては基幹システムに対する侵入防止サーバの構築作業を実施し、また東京2020に備えるべく、現場まで含めたシステム・回線の全てを調査し脆弱性を回避する「構成管理」に着手しました。年度末に発生した新型コロナウイルス問題に対しては、リモートソフトの拡充や新たにチーム会議システムの導入など、在宅勤務体制の構築に努めました。

⑬＜分野別売上高＞

区 分	第30期 (2018.4.1～2019.3.31)		第31期 (2019.4.1～2020.3.31)		対前年度増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
放送番組制作	38,591,414	65.2%	40,726,692	67.1%	2,135,277	5.5%
映像ソフト販売	3,473,901	5.9%	3,319,899	5.5%	△154,002	△4.4%
イベント・ソフト制作	5,969,288	10.1%	6,241,653	10.3%	272,365	4.6%
番組提供・デジタル制作	3,793,188	6.4%	3,729,317	6.1%	△63,871	△1.7%
キャラクター事業	1,073,899	1.8%	1,108,749	1.8%	34,850	3.2%
権利ビジネス	5,115,492	8.6%	4,386,734	7.2%	△728,758	△14.2%
N O D 事業	656,788	1.1%	669,367	1.1%	12,578	1.9%
受託映像国際放送	517,643	0.9%	520,457	0.9%	2,813	0.5%
合 計	59,191,613	100.0%	60,702,871	100.0%	1,511,257	2.6%

※構成比・増減率は小数点第二位以下を四捨五入して表示

(参考)

2019年度 コンクール等受賞一覧

【国内コンクール】

コンクール名	部門/賞	番組および商品名など
第23回文化庁メディア芸術祭	エンターテインメント部門 /優秀賞	大喜利A I & 千原エンジニア
VFX-JAPAN アワード	TV 部門/最優秀賞	NHKスペシャル「恐竜超世界」
第74回 文化庁芸術祭	テレビ・ドラマ部門/大賞	土曜ドラマ「サギデカ」
第74回 文化庁芸術祭	テレビ・ドラマ部門/優秀賞	「スローな武士にしてくれ ～京都 撮影所ラブソディー～」
第74回 文化庁芸術祭	テレビ・ドキュメンタリー部門 /大賞	B S 1 スペシャル 「ボルトとダシャ～マンホールチルドレン20年の軌跡～」
第11回座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバル	コンペティション部門	映画「人生をしまう時間（とき）」
第21回ヤング映像クリエイターを励ます賞	経済産業大臣賞	NEP情報文化番組 P 大田雄史 「若冲 vs 北斎 ～夢の天才対決～」
一般社団法人日本商品化権協会	国内部門 /日本商品化権大賞	「チョコちゃんに叱られる！」
映文連アワード2019	最優秀作品賞 (グランプリ)	「新日本風土記 佃・月島」
映文連アワード2019	優秀企画賞	「平成万葉集」
映文連アワード2019	ソーシャル・コミュニケーション部門/部門 優秀賞	B S P /B S 4 K 「ニッポン印象派水鏡」
先進映像協会 グッドプラクティス・アワード2019	本賞	8KVRコンテンツ開発への継続的取り組み「カナシミの国のアリス」
先進映像協会 ルミエール・ジャパン・アワード2019	8K部門/特別賞	Museum of Red
東京ドラマアウォード2019	連続ドラマ部門/優秀賞	ドラマ10「透明なゆりかご」

令和元年度優秀映像教材 選奨	【教育映像】高等学校 部門/優秀作品賞	アクティブに学ぼう Vol.4 食生活を 考える
令和元年度優秀映像教材 選奨	【教育映像】高等学校 部門/優秀作品賞	最新家庭科第2巻食生活・衣生活・住 生活
第9回衛星放送協会 オリジナル番組アワード	グランプリ 番組部門(ドキュメンタ リー) /最優秀賞	B S 1 スペシャル 「ボルトとダシャ～マンホールチル ドレン20年の軌跡～」
第35回 ATP賞テレビ グランプリ	グランプリ ドラマ部門/最優秀賞	ドラマ10「透明なゆりかご」
第35回 ATP賞テレビ グランプリ	情報・バラエティ部門 /最優秀賞	見上げればあなたはいつもそこに ～祝 還暦・拝啓東京タワー様～
第35回 ATP賞テレビ グランプリ	情報・バラエティ部門 /優秀賞	「若冲 vs 北斎 ～夢の天才対決～」
第35回 ATP賞テレビ グランプリ	ドキュメンタリー部門 /奨励賞	B S 1 スペシャル 「老いてなお 花となる 第二章 俳 優・織本順吉 92歳」
第35回 ATP賞テレビ グランプリ	ドラマ部門/奨励賞	土曜時代ドラマ 「ぬけまいる～女三人伊勢参り～」
第35回 ATP賞テレビ グランプリ	総務大臣賞	「スローな武士にしてくれ ～京都撮影所ラブソディー～」
第35回 ATP賞テレビ グランプリ	奨励新人賞	N E P ドラマ番組 P 鹿島悠 第42回創作テレビドラマ大賞 「週休4日でお願ひします」
第45回 放送文化基金賞	【番組部門】 テレビドラマ番組/奨 励賞	ドラマ10「透明なゆりかご」
第45回 放送文化基金賞	【番組部門】 テレビエンターテイン メント番組/最優秀賞	「チョコちゃんに叱られる！」
第5回 JACE イベントアワ ード	イベントプロフェッシ ョナル賞こども共感賞	MOVE 生きものになれる展
第56回 ギャラクシー賞	テレビ部門/選奨 マイベストTV賞13回 グランプリ	「チョコちゃんに叱られる！」
第56回 ギャラクシー賞	テレビ部門/フロンティア 賞	「スローな武士にしてくれ ～京都撮影所ラブソディー～」

第 56 回 ギャラクシー賞	奨励賞	ドラマ 10 「透明なゆりかご」
第 56 回 ギャラクシー賞	奨励賞	見上げればあなたはいつもそこに ～祝還暦・拝啓 東京タワー様～
第 56 回 ギャラクシー賞	テレビ部門/選奨	B S 1 スペシャル 「老いてなお 花となる 第二章 俳優・織本順吉 92歳」
第 56 回 ギャラクシー賞	テレビ部門/特別賞	B S 1 スペシャル 「ボルトとダシャ～マンホールチルドレン 20年の軌跡～」
2020 年ギャラクシー賞	1 月度月間賞	N H K スペシャル 「認知症の第一人者が認知症になった」
2020 年ギャラクシー賞	3 月度月間賞	アニメ「映像研には手を出すな！」
日本記者クラブ賞	特別賞	B S 1 スペシャル 「隠された日本兵のトラウマ ～陸軍病院 8002 人の” 病床日誌” ～」
第 18 回 放送人グランプリ 2019	奨励賞	N E P 情報文化番組 E P 下村幸子 B S 1 スペシャル 「在宅死” 死に際の医療” 200 日の記録」
第 18 回 放送人グランプリ 2019	企画賞	「チョコちゃんに叱られる！」

【国外コンクール】

コンクール名	部門/賞	番組および商品名など
アジアン・アカデミー・クリエイティブ・アワード Asian Academy Creative Awards	単発ドラマ/テレビ映画部門/最優秀賞	8Kスペシャルドラマ「浮世の画家」
2019年 ABU賞	テレビ・ドキュメンタリー番組部門	NHKスペシャル 「大往生～わが家で迎える最期～」
2019 オタワ国際アニメーション映画祭	コンペティション：未就学児童部門・奨励賞	『プチプチアニメふわふわアワーPuiPui&MuuMuu』 「いつも一緒」
マツァル国際ネイチャーフィルムフェスティバル	奨励賞	ワイルドライフ「オーストラリア フレーザー島 謎のイヌ ディンゴ 家族の絆で生き抜く」
World Media Festival contest 第20回 ワールド・メディア・フェスティバル	Television&Corporate Media Grand Award Animation アニメーション部門：インターメディア・グランドアワード（部門1位） アニメーション部門：アニメ/漫画 カテゴリー インターメディア・グロース金賞（カテゴリー1位）	RADIANT #14:THE BELL TOLLS THE SOUND OF DESTRUCTION -CATASTROPHE アニメ ラディアン 第14話 「崩壊の鐘の音」
ニューヨーク・フェスティバル2019 (New York Festivals 2019)	ドキュメンタリー・アート部門：銅賞	ETV特集 「人知れず表現し続ける者たちⅡ /Creations From Obscure」
ニューヨーク・フェスティバル2019 (New York Festivals 2019)	エンターテインメントスペシャル・テレビ映画部門：金賞	特集ドラマ「眩(くらら) ～北斎の娘～」
アメリカ国際フィルム・ビデオ祭	エンターテインメント部門/シルバー・スクリーン賞	正月時代劇 「家康、江戸を建てる」（前編・後編）
アメリカ国際フィルム・ビデオ祭	エンターテインメント部門:バラエティ/クリエイティブ・エクセレンス賞	「チョコちゃんに叱られる！ #9」

(3) 対処すべき課題

2020年度は、現在の中期経営計画の最終年度になるとともに、NHKプラネットと合併し、新生NEPとしての事業を開始する初年度となります。中期経営計画で示した3つのビジョンと8つの具体的な重点目標をさらに見つめ直して、メディア環境や社会情勢の変化に速やかに対応するとともに、地域の各支社と連携した地域サービスの充実などの統合効果も視野にいたした事業を進めていきます。また、並行して来年度からの新中期経営計画を策定します。次世代を見据えた具体的かつ戦略的な計画とするべく検討を進める必要があります。2020年初頭から発生した新型コロナウイルスは、当社の事業にも大きな影響を与えることが想定されます。そのような状況下ではありますが、公共メディアNHKを支えるNHKグループの一員として、当社が求められる役割を着実に果たしていきたいと考えます。

まずは4K・8K放送において各分野で高品質な番組やコンテンツを開発、制作し、世界市場へのアピールを図っていきます。また、通信における5G時代における新たな事業の開発も課題となります。2020年度から本格スタートした「NHKプラス」についても、運用監視業務や権利処理業務など、新サービスのサポートに努めていきます。

イベント事業では、新型コロナウイルスの影響で「TOKYO JAZZ+plus」をはじめとして中止・延期をせざるを得ないケースも発生していますが、引き続き幅広い世代の期待に応え、NHKの接触率の拡大に貢献する事業に取り組みます。また、2021年に延期となった東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラム等にも引き続き注力していきます。その他の事業でも、権利ビジネスの強化などを通じ、国内のみならず海外にもNHKブランドの向上拡大を目指し、当社の総合コンテンツ創造企業としての本領を一層発揮していかなければなりません。

また、SDGメディア・コンパクトの加盟企業として、SDGs達成に向けた取り組みも課題です。番組制作などはもちろんですが、より幅広い視点で貢献のあり方を検討していく必要があります。

経営面では、新たな組織である業務改革推進室を設置し、基幹システム刷新を含めた全社的な業務改革を進めていきます。5つのチームを結成し、社員の創造性を最大限発揮するための仕組みをゼロベースから検討し、改革を実現することが求められます。

「働き方改革」についても引き続き取り組みます。改正労基法や働き方改革目標なども踏まえつつ、社員のモチベーション・生産性の向上を図りながら、健康的で楽しく働ける企業風土を醸成していくことが必要です。また、合併で規模が大きくなったことも踏まえて、ガバナンスを強化するとともに環境経営の実践などにも一層努めるほか、これからの当社を背負って立つ人材の育成に向けた施策を実践していきます。

当社は、合併を契機に「全国ネットワークを基盤とする総合コンテンツ企業」としてさらに進化し、NHKグループの一員として、公共メディアにおける番組の充実・発展と地域サービスの充実に尽くすとともにNHKブランドの向上を目指してまいります。

(4) 設備投資等の状況

当期の設備投資総額は3億11百万円で、内容は以下のとおりです。

(単位 百万円)

資産の種類	取得価額	備考
有形固定資産 建物・構築物・車両	121 12	事務所改装 ワークステーション空調工事等
有形固定資産 工具器具備品	52 45 18 8	事務所改装什器類 パソコン、HDD等周辺機器 撮影用カメラ、8K再生機等 什器その他
無形固定資産 ソフトウェア	16 15 18	WAN構築 業務システム改修 Office365 その他
計	311	

(5) 資金調達の状況

前記の設備投資の資金は、自己資金で充当しています。

(6) 事業譲渡・吸収分割または新設分割の状況

該当事項はございません。

(7) 事業譲受の状況

該当事項はございません。

(8) 吸収合併・分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況

該当事項はございません。

(注) (16) その他会社の現況に関する重要な事項をご参照下さい。

(9) 他の会社の株式その他の持分または新株予約権等の取得の状況

該当事項はございません。

(10) 財産および損益の状況の推移

(単位 千円)

区 分	第 28 期 (2017年3月期)	第 29 期 (2018年3月期)	第 30 期 (2019年3月期)	第 31 期 (2020年3月期)
売 上 高	55,126,704	55,285,650	59,191,613	60,702,871
営 業 利 益	1,430,932	663,820	2,082,625	2,908,613
経 常 利 益	1,875,122	1,186,932	2,342,779	3,280,046
当 期 純 利 益	1,304,900	826,654	1,604,812	1,277,029
1株当り当期純利益	221,394円71銭	140,253円53銭	272,279円09銭	216,666円00銭
総 資 産	26,708,229	24,949,179	28,243,496	28,791,741
純 資 産	15,681,036	14,709,095	15,865,822	16,158,423

(11) 主要な事業内容

- ①放送番組の企画、制作、購入
- ②有線テレビジョン放送事業者への放送番組の頒布
- ③映像国際放送の実施に関連する業務
- ④放送番組に係るコンテンツ等の著作物の発行、頒布
- ⑤放送に関連した催し物や公共的な各種催し物の企画、実施

(12) 主要な事業所等

本 社 東京都渋谷区神山町4番14号 第三共同ビル
東京都渋谷区神山町5番20号 神山町小川ビル
ワープステーション江戸
茨城県つくばみらい市南太田1176

(13) 従業員の状況

	従 業 員	NHK出向者等	計	増 減	平均年齢
男	275名	100名	375名	± 0名	50才 5か月
女	123名	20名	143名	+ 4名	45才 7か月
計	398名	120名	518名	+ 4名	49才 1か月

注1：役員、デジタルSKIPステーション、海外現地法人、NHKへの出向者は含みません

注2：契約社員を含みます

(14) 重要な親会社および子会社の状況

①親会社との関係

当社の親会社は、NHKであり、当社の株式4,843株を保有しており、これは当社の議決権比率の82.17%に当たります。

当社は、NHKからの委託による放送番組などの制作と購入、有線テレビジョン放送事業者への放送番組の頒布、映像国際放送の実施、NHKの放送番組に係るコンテンツ等の著作物の発行と頒布、NHKの放送に関連した催し物や公共的な催し物の企画と実施、これらに関連する業務およびNHKが制作した番組の利用権の購入などを行っております。

②重要な子会社の状況

該当事項はございません。

③親会社等との間の取引に関する事項

当社では、親会社NHKとの取引をするにあたり、独立した第三者との間の取引と同等の条件であることを確認し、取締役会において当該取引について相当との判断を行いました。

(15) 主要な借入先と借入額

借入先	借入金残高
株式会社 みずほ銀行	50,000 千円

(16) その他会社の現況に関する重要な事項

当社は、2019年12月18日に締結した合併契約に基づき、2020年4月1日を期日とし、株式会社NHKプラネットと合併しました。

2. 会社の株式に関する事項

- ①発行可能株式総数 10,000 株
- ②発行済株式の総数 5,894 株
- ③期末株主数 9 名
- ④株 主

株 主 名	持 株 数	持株比率
日本放送協会	4,843 株	82.17%
株式会社NHKテクノロジーズ	210 株	3.56%
株式会社NHK出版	171 株	2.90%
株式会社NHKグローバルメディアサービス	168 株	2.85%
株式会社NHKアート	146 株	2.48%
株式会社NHKエデュケーショナル	142 株	2.41%
株式会社NHKプロモーション	123 株	2.09%
株式会社みずほ銀行	59 株	1.00%
株式会社NHK文化センター	32 株	0.54%

3. 会社役員に関する事項

(1) 役員 の 地位、氏名、担当、兼職 の 状況

地 位	氏 名	担 当	他の法人の代表または重要な兼職の状況
代表取締役社長	安齋 尚志	全体統括	
専務取締役	佐藤 幹夫	事業本部長 建築管理（建設業経営管理業務責任者）	
常務取締役	柳田 昌賢	経営企画室長 海外戦略室	
取締役	諏訪 雄一	事業本部副本部長 〔イノベーション戦略室〕	
取締役	押田 敦	事業本部コンテンツ展開センター長	
取締役	尾崎 充信	制作本部副本部長 〔ドラマ番組〕	
取締役	加藤 久仁	ライターアーカイブスセンター長	
取締役	飯田 秀生	経営企画室〔人事・総務〕 統合	
取締役	河内 秀則	事業本部クリエイティブ事業センター長	
取締役	菅 康弘	制作本部長	
取締役 (非常勤)	掛川 治男		㈱NHKエデュケーショナル社長
取締役 (非常勤)	森永 公紀		㈱NHK出版社長
取締役 (非常勤)	湯川 英俊		NHK関連事業局専任部長
取締役 (非常勤)	小野木昌史		NHK編成局長
取締役 (非常勤)	佐藤 高彰		NHK制作局長
監査役	木村 弘巳	社外常勤監査役	
監査役	渥美 哲	常勤監査役	
監査役	堤 優加	社外非常勤監査役	㈱みずほ銀行 営業第十八部次長
監査役	嶺野 晴彦	非常勤監査役	NHK内部監査室監査部 専任部長

注1：2019年4月24日をもって板野裕爾が代表取締役社長を退任し、4月25日付で安齋尚志が代表取締役社長に就任しました。

注2：2019年6月27日付で、飯田秀生、河内秀則、菅康弘が取締役に、渥美哲が監査役に就任しました。また同日付で、大路幹生が取締役を、吉田哲彦が監査役を退任しました。

注3：2020年4月1日の合併の効力発生に伴い、同日付で新たに山崎秋一郎、杉山太一が取締役に、大月将幸が社外常勤監査役に就任しました。

注4：社外監査役木村弘巳は、公認会計士の資格を有しており、財務および会計に関する相当程度の知見

を有しています。監査役渥美哲は、内部統制とリスクマネジメントに関する知見を有し、放送事業に高い見識を持っています。社外監査役堤優加が兼職している㈱みずほ銀行は、当社の取引銀行です。

(2) 取締役・監査役の報酬総額

役員区分	報酬の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額		対象役員 数
		定額部分	変動部分	
取締役 (社外役員を除く)	164,731千円	122,519千円	42,212千円	12人
監査役 (社外役員を除く)	11,760千円	11,760千円		2人
社外役員	12,000千円	12,000千円		1人

※使用人兼務取締役の使用人給与部分を含みます。

※非常勤取締役5人、非常勤監査役2人に対しては、報酬を支払っておりません。

(3) 社外役員に関する事項

社外監査役

社外監査役のうち、木村弘巳監査役は当年度に開催された取締役会に7回出席[7回開催中]、監査役会に7回出席[7回開催中]し、当社の業務執行における適正性確保の観点から提言をしています。

堤優加監査役は当年度に開催された取締役会に6回出席[7回開催中]、監査役会に6回出席[7回開催中]し、当社の業務執行における適正性確保の観点から提言をしています。

4. 会計監査人の状況

(1) 会計監査人の名称

E Y 新日本有限責任監査法人

(2) 会計監査人の報酬等

公認会計士法第2条第1項の業務に関する報酬	17,000千円
上記以外の業務に関する報酬	8,712千円

注1：当社の監査役会は、前事業年度における監査計画と実績の比較を行い、監査時間および報酬額の推移を確認し、当事業年度の監査予定時間および報酬額の妥当性を検討した結果、会計監査人の報酬について、会社法第399条第1項および第2項の規定による同意を行っております。

(3) 会計監査人の非監査業務の内容

当社は会計監査人に対して、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務（非監査業務）である、収益認識会計基準等への移行にかかわる会計上の影響度調査業務を委託し、対価を支払っております。

(4) 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

会社法第340条第1項各号に掲げられている事由およびこれに準ずる事由等を会計監査人の解任または不再任の決定根拠としております。

(5) 会計監査人の責任限定契約の内容

該当事項はございません。

備考：報告中の記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示してあります。

5. 業務の適正を確保するための体制（平成27年9月17日取締役会決議）

（1）当社の取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

①当社は取締役、社員を含めた行動規範として、「NHKエンタープライズ倫理・行動憲章と行動指針」を定め、これらの遵守を図っている。

また、コンプライアンスを確保するため、「リスクマネジメント委員会運営に関する規程」を定め、社長を委員長とする「リスクマネジメント委員会」を設置し、全社的に法令遵守が確保される体制をとっている。

今後さらに取締役、社員のコンプライアンスの徹底を図るため、すでに設置されている「コンプライアンス相談・通報規程」「相談・通報窓口」などを社内に効果的に周知し、適宜、法令等の遵守状況をモニタリングする。

②取締役会については、「NHKエンタープライズ取締役会規則」が定められ、その適切な運営が確保されており、定例で開催するほか、必要に応じて随時開催し、取締役間の意思疎通を図るとともに相互に職務執行を監督し、法令・定款違反行為を未然に防止している。万一、取締役が他の取締役の法令・定款違反行為を発見した場合は直ちに監査役および取締役会に報告するなどして、その徹底を図っていく。

③同様に、社長、常勤役員ほかで構成する常勤役員会については「役員規程」、執行役員については「執行役員規程」を遵守し、職務執行の法令・定款への適合を確保していく。また、監査役は、取締役の職務執行、経営機能に対する監督強化を図っていく。

④コンプライアンス関連の研修、社内報等による啓発、社員総会などによる意識づけに努め、全社的な法令遵守の一層の推進を図るとともに、「稟議規程」「経理規程」により、取締役、社員の職務執行の透明性を向上させる。

（2）当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

①「株主総会議事録」「取締役会議事録」「常勤役員会議事録」については、適切かつ確実に保存・保管され、「常勤役員会議事録」については、取締役および監査役が常に閲覧可能な状態に置かれている。

②「文書管理規程」に定められた文書の扱いを遵守することにより、取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に適正を期す。

(3) 当社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ①当社は、当社の事業に係るリスクとして、投資的リスク、下請法等法令違反につながるリスク、企業機密への不正アクセス・漏洩等情報セキュリティ的リスクなどを認識し、信用調査、対応マニュアルの整備等を進めている。また、公共放送グループの一員として、公金の扱いについては特に厳正を期し、万が一にも社会的な指弾を受けることのないよう注意を払っている。さらにNHKグループ全体にかかわるリスクについては、「NHKグループ通報制度規程」にもとづいて、NHK総合リスク管理室に、速やかに報告・連絡することになっている。
- ②新たなリスクが発生した場合には、必要に応じ、速やかに対応責任者となる取締役を定める。

(4) 当社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- ①職務権限および職制を定め、取締役の職務権限と責任および指揮命令系統を明確にしている。
- ②重要な意思決定については、常勤取締役等による役員会などにより多面的に検討し、慎重に決定する仕組みを設けている。
- ③ITを活用した稟議システムを構築し、迅速な意思決定を図っている。
- ④中期経営計画およびそれを受けた年度事業計画を策定し、事業ごとの目標値を設定し、業績を把握し、適宜見直しを行っている。
- ⑤さらに効率的に職務を執行するために、内部統制との関係を考慮しつつ、案件に応じた職務権限の委譲を検討していく。

(5) 当社ならびにその親会社および子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

- ①当社の親会社にあたるNHKの子会社等の事業が適切に行われることを目的として、「関連団体運営基準」により、事業運営およびこれに対するNHKの指導・監督等に関する基本的事項が定められており、当社も該当している。
- ②NHKは、「関連団体運営基準」に関する事項およびNHKが指定する事項について、監査法人等に委嘱して関連団体の業務運営状況調査を実施し、監査法人等の報告に基き、関連団体に対し必要な指導・監督を行っており、当社も該当している。

③NHKの監査委員は、NHK役員の職務の執行を監査するため必要があるとき、当社の事業の報告を求めたり、当社の業務および財産状況を調査できることになっており、その場合には、当社は、適切な対応を行う。

④NHKは、全国民の基盤に立つ公共放送の機関として、不偏不党の立場を守って、放送による言論と表現の自由を確保し、豊かで、良い放送を行うことを目的とした法人である。

また、放送法により、NHKに対する公共的規制は、国民の代表である国会を中心として行われ、毎年度の予算・事業計画は国会での承認を要している。

NHKには、経営方針その他その業務の運営に関する重要事項を決定する権限と責任を有する経営委員会が設置され、会長等による業務の執行と監督の機能とが明確に分離され、適正なガバナンスが確保されており、業務の実施にあたっては、「NHK倫理・行動憲章」「行動指針」の策定、「通報窓口」の整備などにより、適正が確保されていると理解している。

⑤当社の子会社等については、定期的に業務報告を受けており、当社担当取締役によって、日常的にチェックが行われている。

また、子会社等のコンプライアンスについては、子会社等の社長を責任者とする体制を整備し、法令遵守にあたることになっている。

(6) 当社の監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項、当該使用人の取締役からの独立性に関する事項および当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項

①監査役からの求めがあった場合には、監査役の職務を補助すべき使用人として、当社社員から監査役補助者を任命する。監査役補助者の任命、解任、人事異動、賃金等については、監査役会の同意を得た上で、取締役会が決定する。なお、平成21年3月、監査役から求めがあったので、監査役補助者を任命している。

②監査役補助者は、当社業務を兼務することができるが、監査役より監査業務に必要な命令を受けた場合は、その命令に関して、取締役の指揮命令を受けないものとする。

(7) 当社の取締役および使用人が当社の監査役に報告をするための体制、報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

- ①取締役または使用人は、法定の事項に加え、当社および当社グループに重大な影響を及ぼす事項の内容を、監査役にそのつど報告するものとする。
- ②監査役は、いつでも必要に応じて、取締役および使用人に対して報告を求めることができる。
- ③当社は、監査役に報告をした者に対して、その報告を行ったことを理由として不利益な取扱いを行うことを禁止する。

(8) 当社の監査役の職務の執行について生ずる費用の前払い等に係る方針に関する事項、その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- ①監査役からその職務の執行について生ずる費用の前払い、負担した債務の弁済等の請求があったときは、当該請求に係る費用または債務が、監査役の職務の執行に必要な場合を除き、当該費用または債務を処理する。

【業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要】

当社の取締役会は、取締役15名（うち、非常勤取締役5名）で構成されていて、社外監査役2名を含む4名の監査役も出席し、業務執行取締役から業務執行状況の報告が行われるとともに重要事項の審議・決議を行っています。

また、常勤監査役は、取締役会のほか常勤役員会等の社内の重要会議に出席するとともに、取締役から業務執行の状況について直接聴取を行い、業務執行の状況や内部統制、コンプライアンスに関する問題点を監視する体制を整備していて、経営監視機能の強化および向上を図っています。

コンプライアンスに関する取り組みの状況では、社長を委員長とする「リスクマネジメント委員会」を開催し、コンプライアンスやリスクマネジメントに関する報告や決定が行われています。また、全役員、社員等を対象とした研修活動も定期的にも実施してコンプライアンスの徹底を図っています。当社の内部監査部門では、年度ごとの内部監査計画に基づきモニタリングを実施しています。

【業務の適正を確保するための体制の評価】

全社的な内部統制について、「統制環境」「リスクの評価と対応」「統制活動」「情報と伝達」「モニタリング」「ITへの対応」という6つの観点から、整備状況および運用状況の有効性を評価しました。また、業務上重要なリスクを抽出した上で、必要な対応が実施されていることを評価しました。

評価の結果、2020年3月31日時点における当社の内部統制は、概ね有効であると判断しました。